



# 城南中だより

第 4 号

令和8年6月30日発行

学校教育目標 希望と愛をはぐくむ美と活力の学校

～常に『思考』を大切にして、『創造』と『進化』を続ける魅力ある学校～

〒339-0034 さいたま市岩槻区笹久保577 TEL 048-798-0007 さわやか相談室直通 048-797-0514

## 備えあれば

校長 吉原 誠 士

過日の台風6号接近に伴う休校にご協力いただきありがとうございました。この措置により欠けた授業を補填<sup>ほてん</sup>するため、7時間授業の日を2日設定しました。少しがっかりした生徒もいたようです。また、最近各地で地震の被害が報じられ、先週末にはダブル台風の接近がありました。現在の中学生たちは2011年3月11日の「東北地方太平洋沖地震」後の生まれであることを考えると、改めて自然災害に対する関心を高め、心構えや実際の備えを見直すように迫られている気がします。必要以上に怖がらせる意図はありませんが、特に大人たちには「忘れた頃にやってくる」と言われる天災に対処できるように、冷静に準備を進めておくことを求めます。

学校周辺では2013年と2015年に竜巻による被害が報告されています。竜巻発生には気象条件だけでなく、地形も関係するようです。城南中学校の校舎からは南側に竜巻が生じた地点とされる尾ヶ崎新田と大字尾ヶ崎（両方とも気象庁の記録による）を見渡すことができます。私も積乱雲が押し寄せて空模様が怪しくなると、雷雨の状況と同時に上空の雲の垂れ<sup>た</sup>下がり方や校庭を舞う木の葉の様子を観察するようにしています。2013年の事例では、多くのけが人を出し、建物の損壊も全国の同様のケースと比べて大きい方でした。話題として取り上げることが少なくなっているようですが、今後も当地区では緊張感を保ち続けることが必要でしょう。

こうした過去のデータがいつでも検索可能なのは現代の情報化のおかげです。ここに災害を直接経験した人の話を加えると歴史がリアルに迫るような感覚になります。例えば私の中3の時の担任が伊勢湾台風（昭和34年）時のエピソードとして「家が暴風でグラグラするので、まず風下側の窓を全開にし、次に風上側の窓を20cmくらい開けたら風が吹き抜け、揺れがおさまった」（窓の開け方を逆にすると屋根がそのまま飛ぶそうです）と話していました。上記「3.11大震災」を経験した同僚からは「携帯電話の電源を確保するのに技術科の授業で作った手回し発電機が役立った」と聞きました。体験者が語り部であり続けることの大切さも実感できます。

本校では備えの一環として新和小・和土小と連携した引き渡し訓練を2年前から実施しています。また、元荒川と綾瀬川にはさまれた当地にあって、城南中は標高が高く洪水の際には比較的 안전한場所だとされます。先日の「休校」の際には、子どもたちはお休みでも避難所開設を予測して教職員は学校待機としました。しかし、夜間や休日に大きな地震が起きた場合は地理的な制約もあって、教職員の参集に相当な時間がかかりそうです。そこで、さいたま市では学校近隣に住まう市職員も避難者への対応にあたることになっています。この場合、学校関係者も市の担当者も地域の方々と同様に被災者ですのでよろしくご理解ください。万全の協力体制をとれるようにしていきましょう。